

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 星ヶ丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 児童質問紙調査

児童質問紙調査
☐ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

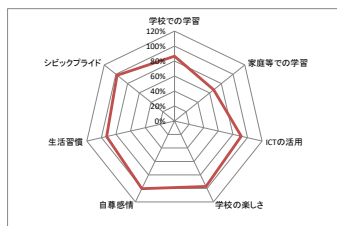
- 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	読むことに比べて話すこと・聞くこと、書くことの理解が低い。短答式の問題や記述式の問題の正答率が低い。目的や意図に応じて、情報と情報を関係づけたり、自分の考えが伝わるように表現の仕方を工夫することに課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題。	下回っている
	努力が必要な問題	言葉の特徴や使い方の問題。日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で全国平均を下回っている。特に「変化と関係」についての正答率が低い。また、短答式の正答率が低いことから、自分の考えを数や言葉で説明することに課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題。	下回っている
	努力が必要な問題	データの活用の問題。速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「自分には、よいところがあると思いますが」「先生は、あなたのよいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との問いに対して90%以上の児童生徒が肯定的に回答している。
・問題解決への意識形成や自身の学びを積み重ねの少なさが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後は、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びへの授業改善を学校全体で進め、ICTの効果的な活用と、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にする必要である。
・家庭等で1時間以上の学習に取り組む児童の割合が低かった。今後は、児童が「できる・分かる」と実感できるようにし、学習に対する探究的・主体的な態度の形成を目指していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

説明を求められる問題での正答率が下がる傾向から、児童が、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように、ICTの活用や話し合い活動を通した協働的な学習を増やし、今後も児童が進んで表現したり、自ら学びを積み重ねたりすることができるようにする。

- 家庭生活習慣等に関する取組

・読書をする児童がやや少ないことから、今後も読書に親しめるよう、図書館の充実と学校全体での読書活動の充実を図る。

・宿題以外にも自主学習の取組を推奨し、児童の自学ノートの紹介やAIドリルの積極的な活用、また「学力定着期間」の設定をするなどし、児童に学ぶ楽しさ・面白さを広げ、学習意欲を高めるとともに、学習習慣の定着を図る。